

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

9月号 YMCAでの思い出 中学生に聞く。



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

YMCAと私

永田千晴 幼稚園教諭 (盛岡YMCAリーダーOG)

私がYMCAに入ったきっかけは、今思えばあまり具体的な理由はなかったように感じます。ただ、一緒に活動した子どもたちやリーダーたちとの出会いがなければ、今の自分は確実にいないと思います。得意なこともなく、勉強もできる子ではなかったのも、もしかしたら少し自分を変えたことで、YMCAに興味を持ったのかもしれない。

YMCAで初めて沢山の子供たちと触れ合ったのですが、接し方が分からずトラブルを対処できないこともしばしばありました。そんな中、先輩方や友人との会話の中で、一人一人のリーダーの考え方や姿勢などが自分にとってとても参考になり

ました。ですが、自分なりに解釈し、行動に移すのはとても難しく、「この子は他のリーダーと一緒にいた方が楽しいのかな」と自分のことばかり考えていた気がします。

YMCAでの経験の中で、子どももリーダーも一体となって取り組む姿勢が私は大好きでした。自信を持つことができない子どもも、一歩ずつ前に進めるように背中を押してあげられる人が沢山いるというのはとても素敵なことだと思います。

私もYMCAでの経験を胸に自信をもって頑張っていこうと思います。

★YMCAのサッカーで得たこと

9月10(土)見前南中学校で、市内の中学生のU-15サッカーリーグ、最終戦が行われました。盛岡YMCAは、3年前より中学生によるジュニア・ユースチームを結成し、各種大会に参戦しています。今回で公式戦の出場が最後になる、中学3年生の4名に、幼稚園や小学校時代からYMCAでサッカーや様々な活動に参加してきた思い出を聞いてみました。

★ 最初にYMCAに来たのはいつ頃？

響：3～4歳の頃、兄が既にYMCAでサッカーをやっていたので、それがきっかけです。ただ、ひたすらボールを追っかけていた思い出があります。

牧人：僕も幼稚園の頃、でも、ボールを追っかけずにゴールの前にぼーっと立っていたと思う。

巧：僕は、小学校3年生の秋、松園の小鳥沢公園でサッカースクールをやっていたので、なんとなく入った。最初は、牧人が男の子か女の子か分からなかった。

優晋：僕も3年生。でも冬だったと思う。初めて参加して自己紹介しているのに誰も聞いてくれない。変な人たちばかりだったとが印象的。その頃は、仁王小学校でなくて中津川の河川敷でサッカーをした。

★ YMCAでの一番の思い出は？

響：小学校6年生の最後の試合。カモメの玉子杯の決勝トーナメントで優勝候補の見前FCと対戦したこと。試合は敗れたけど、ジュニア・ユースで頑張るぞと心に決めた。

巧：3年生の頃のYMCAのサッカー仙台大会。先輩たちが優勝した。上手で強く憧れた。僕らも6年の頃優勝したけどね。

優晋：6年生の頃の全日本少年サッカー大会の時の上田戦。ロングシュートを決めたんだ。

全員：「ああ、それ覚えている。」

牧人：今年の夏、インターシティの東北大会に出場したこと。県外のチームが上手くて強いのは驚いた。

★ 一番しんどかったことは？

響：宮古国民休暇村での春のサッカー合宿。部屋みんなの出発が遅れて練習に遅刻したら罰でゲームでグランド20周走らされた時。

優晋：あっ、それ俺が原因。トイレからなかなか出てこなかったからだ。(笑)

巧：中学1年生の時の海のキャンプ。海のキャンプなのに、ジュニア・ユースのメンバーだということで、ディレクターの眞太

郎(※1)に牧人と2人で坂道ダッシュと腹筋をやらされた。まじ、ありえねー。

(※1. 盛岡YMCAスタッフの伊藤眞太郎、YMCAサッカーチームの監督。あだ名は「ひげたまご」この当時の子どもからは、名前をそのまま呼ばれている。表紙の写真の真ん中に写っています。)

優晋：5年生の頃、陸前高田でのサッカー合宿。走るのが多くて最後の方は足が動かなかった。

牧人：小学校6年から始まったサーキットトレーニングがきっかけ。

★ 嬉しかったことは？

響：小学校5年生の頃の新人戦の県大会。大槌とPK戦までもつれこんだけど、一番目のキッカーでプレッシャーの中、決めたこと。あの試合は勝ちました。

巧：海のキャンプには、小学生の頃から行っていたのだけど、僕だけ何故か魚が釣れなかった。でも、中2の夏の海のキャンプで眞太郎と手掴みで、カレイを捕まえたこと。

優晋：5年生の時、新人戦の県大会で月が丘少年団に敗れたけど、次の年の全日本少年サッカー大会で雪辱できたこと。

牧人：人として成長できたこと。(笑)
全員：「おめー、何かっこつけてんだよ！」

★YMCAで得たことは？特に中学生時代。

響：努力をすれば結果がついてくること。1週間のきつい練習でもその練習の成果が試合で現れて自信を持ってプレイできた。

牧人：サッカーがますます好きになれたこと。キツイ練習の成果は必ず試合に表れた。

巧：忍耐力。小学6年生の後半、中学生の練習に参加していたけど本当にきつかった。でも欠席は病気で休んだ1回だけ。やり続けたことが自信につながった。

優晋：走るから体もきついし、なかなか思うようにいなくて精神的に苦しい時もあるし、頭を使うからしんどいけど得るものは大きいです。

響：とにかくYMCAのサッカーは頭を使います。体よりそっちの方がきついくらい。頭がパンクするぐらいみんな考えながらサッカーをしてきました。みんな考える習慣がついたんじゃないかな？

全員：(笑)
納得した表情でうなずいてました。



5年生の頃、田沢湖のスキーキャンプ

盛岡YMCAジュニアユースのキャプテン。誰もが認めるテクニックの持ち主。今までのYMCAの選手の中でもトップクラスのテクニシャンです。持ち前の視野の広さで相手や仲間を感じ、パス・ドリブル・シュートをうまく使い分ける。相手にとって一番嫌な選手です。後輩たちからはもちろん、同学年からも目標とされています。後輩たちからは「東先輩」のあだ名で人気の響君です。



海のキャンプ気になった時の写真

4人のなかで1番の色々なポジションができる選手。センターバックやサイドバック、ボランチもできる多彩な選手。そのためサッカーの知識も豊富で、試合では仲間に指示の声を出しゲームをコントロールしてくれました。またドリブルが得意で、相手の隙をついての突破は何度もチャンスを生み出しました。後輩たちからは、「ポニョ」のあだ名で人気の巧君です。



5年生の時、試合に出発する前

盛岡YMCAでは珍しい大型の選手。中学2年生からセンターバックからフォワードへコンバート。ポストプレーもウラへの飛び出しも出来るユース。恵まれた体格を活かし相手ディフェンスとの1対1に打ち勝ち、得点を量産してくれました。さらに前線からのディフェンスでも活躍してくれ、相手のカウンターを防いでくれました。後輩たちからは「モアイ」のあだ名で人気の優晋君。



4年生の秋、アドベンチャークラブ八幡

盛岡YMCAジュニアユースのスピードスター！中学3年生からは小学生から慣れ親しんだポジションのフォワードからサイドバックへコンバート。安定したサイドでのディフェンスと、スピードを生かしたサイドの突破が武器。さらに得点にも絡むことももちろん、みずからゴールを決めることもできます。後輩たちからは「トマト」のあだ名で人気の牧人君です。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 9月報告書

9月11日で震災から半年と同時に18日でYMCAが宮古の地で活動を開始し、半年が経過しました。この半年間ゆっくりとしたスピードでしたが、じっくりと宮古の地に根ざした活動を行ってきました。3月に活動を開始した時は、宮古にはYMCAが無く、宮古の方々がYMCAを知らない中での活動スタートでした。半年たった今、多くの方に声をかけられたり、教会まで足を運んでくださって多くの作業の依頼を受けたりするようになりました。このように私たちは宮古の街に、コミュニティに受け入れられて活動の場が与えられていると感じながら、毎日の作業を行っています。宮古の方々に受け入れていただけるようになったのは、ボランティアの方々が一生懸命作業している姿を見ていただいたり、作業に伺ったボランティアの方やスタッフがコミュニケーションをとる中で信頼関係を築くことができたからだと思います。私たちは6か月という時間をかけて、多くの方々が宮古の方々と向き合って築いた信頼という財産をこれからも大切に活動を行っていかねばなりません。



↑玉入れ



↑ 応援合戦相談中…。
→ 応援合戦！



↓ じゃんけん列車



9月4日は大阪YMCAのスタッフ・リーダーが来て下さり、鉾ヶ崎小学校で運動会を行いました。この鉾ヶ崎地区は津波の大きな被害を受け、約800世帯の家が無くなったそうです。仮設住宅へ移り住んでの生活が始まっていますが、仮設住宅の場所はバラバラでなかなか今までのように会うことができないそうです。そこでYMCAでは運動会を企画し多くの方が集う場を設け、思いっきり体を動かし、大きな声をだして笑ってほしいと今回の運動会を行いました。約80名の方々がいらっしやって、子どもも大人も一緒に身体を動かし、大きな声を出して楽しむことができました。おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちが笑顔で走り回っているのを見て笑顔になっていた、楽しい時間を過ごすことができました。

これから宮古は秋から冬に向けてどんどん寒くなります。冬に向けて準備を進めながら、宮古の人々のそばで活動を行っていきたくと考えています。



↓ フォークダンス

← 運動会後の炊き出し



宮古での活動実績(8月末日のべ人数)
 ☆受益者数 7897人
 ☆ボランティア数 3764人

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、「盛岡YMCA宮古ボランティアセンター」開設し、長期的な支援を宮古をベースに行っています。皆様のご協力をお願い申し上げます。

- 救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。
- ① 郵便振替 (同封の払込取扱用紙をご利用下さい。)
 口座記号番号 02290-9-54655
 ※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。
- ② 銀行振込み (下記口座にお振込み下さい)
 北日本銀行本店 普通預金
 口座番号: 7029115
 名義: 盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口
 理事長 石渡隆司

感謝 2011年度 9月29日現在
 順不同・敬称略

● 東日本大震災被災地支援募金・献品 ●

伊藤眞一郎、勝又文子、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤柊馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤目美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川真輔、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斉藤稜太、阿部雄偉、長澤博真、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田敏子、北川けい造、菅恵、カトウアキヨ、インダソウ、鈴木聖流、阿部実結、高谷厚子、佐藤江利子、榎林巧、千葉代子、西本作、工藤直子、サトウシヨウ、遠藤品、ナガイヒロアキ、川坂保宏、宇土澤光里、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、栄有美和、東澤香織、工藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川真輔、サイトウリョウ、山本真大、松尾聡子、山崎詩織、芦屋ワイズメンズクラブ、JCCNC、聖学院、千葉明德短期大学、長浜ワイズメンズクラブ、たちはな建設株式会社、滋賀YMCA、ワイズメンズクラブ、東日本区、高橋千鶴子、小川武

10月の予定

★10月10日（月・祝）
サンデースクール
「火も包丁も使わない料理」
（於：おでって5F
生活アトリエ）

★10月17日（日）
18時30分～20時30分
「N活カフェ×
ボランティア情報交流会」
（於：アイーナ
6F 団体活動室3）

★10月23日（日）
アドベンチャー10月活動
「秋を探してハイキング」
（於：滝沢村森林公園）

★10月25日（火）～30日（日）
「核はいらない！」
（写真展）
（於：アイーナ展示室2）

こぼれ種⑩ 「家のお手伝い＝(小さな)社会の中の役割と責任」

日本基督教団内丸教会牧師（元日本YMCA同盟 主事） 中原真澄



先月号で、子どもが「生きる力」をどの程度、身につけているか…、2種類の体験の有無が大きく影響していると書きました。その一つが自然体験で、「もう一つについては、またの機会に」と書いたもので、今月はその続きとしたいと思います。

「もう一つ」とは＜家での手伝いの有無＞です。「そんな事？」と思う方もいるでしょうが、家のお手伝い＝家事の分担は、子どもが社会的意識をかたちづくるには、とても大きな力を持っているのです。

この50年ほど、日本が豊かになるにつれ、子どもは勉強さえすればいい…そんな風潮が家庭を満たしてきたように思います。しかし、それは大きな間違いです。勉強すればIQ（知的能力の程度）は伸びるかもしれませんが、しかし人は、最初に生まれた時から社会的動物なのです。周りの人々と適切な関係を作り、保っていく能力がなければ、いくら知的能力が高くても、社会の中に自分の位置を占めて生きていくことは難しいのです。最近はそのような事がよく知れてきたためか、EQ（感情的な能力の程度）の方が大切だと言われるようになってきました。

家の中には（主婦の方々には言わずもがな…ですが）いろいろな仕事如山とあります。そのどれもが、家族が快適に暮らしていくには必要なものです。そんなどれかを、年齢や体力に応じ、責任をもってさせていく…親にとっては、自分でやってしまう方が手間が掛からなくて楽かもしれません。しかし、誰もが社会（その最も小さな単位が家族）の中で果たすべき役割と責任があることを学ぶには、とても大切な体験なのです。

YMCAのグループ活動やキャンプが、子どもの成長に大きな意味をもつのは、こうしたことが自然と身につくからでもあります。YMCAに子どもを送っているご家庭は是非、家でも、子ども達を一人前に扱い、毎日の仕事を与えていただきたいと思うのですが…。

「わたしたちは、『働きたくない者は、食べてはならない』と命じておきました」（テサロニケの信徒への手紙二 3章10節から）

☆スタッフ紹介☆

今年7月よりスタッフとして働くことになった清田昂君を紹介しします。飯岡中学校・不来方・札幌学院大学を卒業後、オーストラリアに留学し、今年の4月に日本に帰ってきました。子どもが大好きで、子どもと関わる仕事を探していたところ盛岡YMCAを見つけ、5月から前潟学童のパートとして働くこととなりました。サッカー・水泳も得意ということもあり、その後7月からサッカー・水泳

でも活躍してもらおうこととなり、スタッフとなりました。真面目で負けず嫌いな性格で、人一倍勉強熱心な昂君。少しシャイで天然な一面もあり、まだまだ本性を隠している感じも…。

ベストキッズの5年生の新チームからベストキッズの監督となり、今後もより活躍してくれること間違いなし！これからもそんな清田昂君をよろし



よろしく
お願いします!!

～表紙の写真より～

ジュニアユース2期生、中学3年生と私の写真。こうやって一緒に写真に写るのは何年ぶりだろう。幼稚園や小学校低学年から付き合いしてきた4人。身長も大きくなり、声変わりもした4人ですが私にとっては、今でもあの頃と変わらずかわいい4人です。しかし、4人ともサッカースクール、ベストキッズ、ジュニアユースの数年間で本当に人間としても、一人の男としても、サッカー選手としても「強く・たくましく・頼もしく」成長してくれました。様々な事情があり、中学1年生の頃には6人だった仲間も4人となってしまう、悲しみや不安、苦悩を乗り越えて本当にここまで成長してくれました。先輩の伊藤恵嗣君・石崎稜君の2人の先輩たちと共に人数が少ない初年度、2年目はなかなか結果を出すことができませんでしたが、文句も言わずに今できることを一生懸命に取り組んでくれました。1期生の2人が卒業したあとも2人が残してくれた「心」を一人ひとりがしっかりと受け継ぎ、新しく増えた仲間たちと切磋琢磨し、今年はインターシティーカップの北日本大会にも出場することができました。君たちが先輩たちと作り上げてきた盛岡YMCAジュニアユースの「心」は後輩たちにしっかりと受け継がれ、今後もどんどん進化をしていくでしょう。そして、この盛岡YMCAジュニアユースを卒業していった先輩2人はもちろん、今年の3年生の4人もこれからも輝き続けることでしょ。今後の4人の成長に期待しています！



盛岡YMCAスタッフ・ジュニアユース監督
伊藤 真太郎